

「鷹栖町の未来をつくる会」 住民ワークショップ

開催報告

VOL.1

第1回ワークショップ
平成31年1月30日開催

「鷹栖町の未来をつくる会」とは？

- ・鷹栖町では、現在、平成32年度からスタートする「第8期鷹栖町総合振興計画」の策定に取り組んでいます。
- ・「鷹栖町の未来をつくる会」は、住民の皆さんと一緒に、次期総合振興計画の重点となる課題や施策を考えるものです。
- ・「自分のまちのことは、自分たちで決めよう！」を合言葉に、3回にわたりワークショップ形式で意見交換を行います。(第2回：2月13日、第3回：3月20日)



谷町長のあいさつ

第1回「つくる会」では、基礎的な統計データ（人口など）や「町民アンケート調査」の結果など、これからの鷹栖町を考えるために必要なデータについての情報提供がありました。また、鷹栖町においてさまざまな活動に取り組んでいる3人の町民の方にご登壇いただき、鷹栖町での暮らしと仕事、そして将来の夢について語っていただきました。それらを受けて、参加者35人全員で「鷹栖町での暮らし」と「10年後の鷹栖町で、自分はどうありたいか」についてワークショップを行いました。

【第1回プログラム】

- 1 主催者あいさつ（町長）
- 2 町民ワークショップ
 - (1) 鷹栖町に関する基礎的な情報の共有
 - (2) 町民対談
【登壇者】・大河原 七 生さん
・佐川 美由紀さん
・平林 悠さん
 - (3) ワークショップ
「鷹栖町での暮らしと仕事」

鷹栖町に関する基礎的な情報の共有

人口減少や少子高齢化が進むと、地域の活力が低下して、さらなる人口の流出や産業の衰退が起こります。これは鷹栖町に限らず、日本全体で起こっていること。私たちはそこから目を背けず、向き合っていかななくてはなりません。

アンケート調査などからは「住み続けたい」と考える若い世代の声が明らかになりました。鷹栖町で生活する全ての人たちが、鷹栖町の暮らしと仕事を守るために知恵を出し合うことが必要です。

【人口・経済など】

- ・人口・世帯数は、2015年の国勢調査から減少に転じる
- ・2015年の高齢化率は30.3%。生産年齢人口（15～64歳）の割合は減少を続け、1990年64.9%→2015年54.9%に
- ・鷹栖町は「昼間人口比率」が低く、全道188市区町村中181位。町外の仕事や学校に通う人が多い
- ・町内に産業集積がなく、生み出された付加価値のほとんどが町外に流出 など

【アンケート調査】

- ・10年後の鷹栖町に望む姿は「健康づくりが充実し、誰もが元気に暮らせる町」「安心して子どもを生み、育てやすいまち」
- ・30歳代の子育て世代は「鷹栖町に住み続けたい」と考える割合が高い など

【分野別関係者ヒアリング】

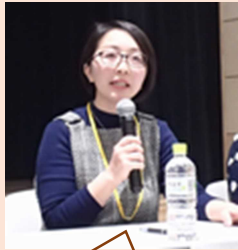
- ・「子どもたちが子育て世代となったときに、帰ってきたいと思えるまちに」など様々な意見

町民対談 「鷹栖町での暮らしと仕事、将来の夢」

ご登壇いただいた3人の「鷹栖町での暮らしと仕事」には、「鷹栖町の未来」を描く素敵な物語がありました。自分の夢をかなえることは、鷹栖町の未来をつくること。日々の仕事や活動が、鷹栖町のまちづくりにつながっていました。

大河原七生さん

理学療法士・保健学博士。結婚、出産を経て、2017年に家族で鷹栖町にUターン



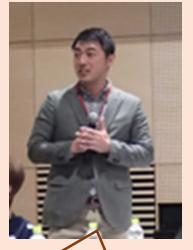
佐川美由紀さん

地元の米粉を使ったシフォンケーキを製造・販売する「米・っこ」の代表



平林 悠さん

2016年に愛知県名古屋市から家族で移住。鷹栖町で米農家として新規就農し、移住相談アドバイザーとしても鷹栖町をPR



- 理学療法士になったときに「いつか鷹栖町のために資格を役立てたい」と考えていた。
- 春からは、鷹栖町を含めた近隣で「訪問リハビリ」を行う仕事に就きたいと考えている。
- 病院に勤めていたころ、患者さんが「地域に戻ったときのこと」を考えながら仕事をしていた。
- これからは、自分が行ったりハビリが、患者さんの生活にどのように影響しているのかを肌身で感じながら仕事をしたい。

- 社会福祉協議会から地域サロンづくりについて話があり、仲良し4人でサロンを立ち上げた。
- 活動しながら、鷹栖の美味しいお米を使って「特産品」が作れないか、というアイデアが生まれた。
- とんとん拍子で必要な許可をとり、シフォンケーキづくりがはじまった。
- いろいろな「つながり」があったから今がある。今後は町外の人を鷹栖に呼び込むような活動にしたい。

- 移住などに関わって、鷹栖町の皆さんにはとてもお世話になった。「あったかす」の人がたくさんいる。恩返ししたい。
- おいしいものを食べると笑顔になる。おいしいお米を作りたい。
- 食べ物がおいしく、人があったかい。このまちの魅力を外に伝えて、人を呼び込みたい。
- 「農業」が「楽しくて、稼げる仕事」であるものにしたい。

町民ワークショップ 「鷹栖町での暮らしと仕事」

7つのグループに分かれて、「鷹栖町での暮らしと仕事」「10年後の鷹栖町」についてワークショップ形式で意見交換を行いました。

下は中学生から上は70歳代の住民まで、さまざまな年齢・立場の住民が「ごちゃまぜ」になって活発に議論。これからのまちづくりのヒントやキーワードがあふれる場となりました。

- はまっていること・楽しんでいること
- 星空がきれい
- 四季を感じられる
- 仕事の「米作り」が楽しみ。幸せ
- 人との交流
- 長老から聞く昔の話
- 仲間と一緒にスポーツ
- 楽しいイベント
- 除雪が楽しい
- など

- 大変なこと・こまっていること
- 子ども・子育て世代の居場所が少ない
- 農繁期の人手不足
- 若者の働く場
- 交通が不便
- 雪かきが大変
- 買い物不便
- 情報が少ない。鷹栖のことを知りたい
- など

- 10年後の鷹栖町
- 農家になりたい人であふれるまち
- 支えあって暮らせるまち
- 音楽スポーツにあふれるまち
- 子どもたちが帰ってくる場所
- 新しい人が住みやすいまち
- 一生働けるまち
- 胸を張って「良いまちだ」といえる
- おいしいお米が食べられる
- 地域の団結力
- など

【グループワークの進め方】

- 自己紹介
- グループワーク1：鷹栖町での暮らしと仕事
- はまっていること・楽しんでいること
- 大変なこと・困っていること
- グループワーク2：10年後の鷹栖町
- 10年後、鷹栖町で暮らす自分はどうありたいか、鷹栖町をどのようなまちにしたいか

